



巻9
1034
3巻止

門口 9
 號 1034
 卷 3



女諸袿集大金卷之五

○ 飲食 給楲之巻

一 由^ご酒まりの附に^{たがは}並そ右のよ^をま^を死^をと^をい^たて^て右^をあ^を
 のむべし。並そ右をそりた^うろし。又^にた^を死^とて^右う^ろ
 すり^まぶ^らひ^んち^を死^て右^をそ^のむ^べし。た^のよ^はつ^きを^は
 た^のい^さを^あせ。右^のい^さを^もせ^りて^かー^きー^うろ^むく^ろ
 其^のむ^べし。並^して^は附^に。並^のむ^ふか^りめ^いう^きを^あら^か
 一式^二款^の候^は若^あり^んば^もく^ちす^んを^とり^若れ^と
 り^をあ^らく^ん。揚^賣打^身も^れ初^めに^ゆり^まゆ^い
 一七^めに^あめ^こ。あ^に三^つが^いぶ^らひ^をあ^らか^りめ^いう^きを^あら^か
 る^中に^よん^ばあ^らき^るさ^ず。あ^らか^女法^則集^まる^しと^り
 一 由^な合^{まり}り^りふ^り先^著を^そり^けい^をそ^ろし^て先^をあ^らか^りて^おす

女諸袿集大金卷之五

一

まんぢうを^{せん}行^{せん}あて。やういそを^{せん}て。さやうじよさう
 ち^{せん}てま^{せん}り。ま^{せん}りか^{せん}ん。く^{せん}ち^{せん}り^{せん}る^{せん}あ^{せん}の^{せん}意^{せん}え
 ぐ^{せん}り^{せん}の^{せん}意^{せん}で^{せん}毛^{せん}の^{せん}ま^{せん}か^{せん}さ^{せん}す。豚^{せん}糞^{せん}を^{せん}ま^{せん}り^{せん}ま^{せん}け
 ん^{せん}の^{せん}又^{せん}意^{せん}を^{せん}か^{せん}も^{せん}。く^{せん}り^{せん}か^{せん}ん。一^{せん}口^{せん}い^{せん}ま^{せん}り^{せん}ら^{せん}の^{せん}意^{せん}
 と^{せん}か^{せん}す^{せん}く^{せん}り^{せん}約^{せん}要^{せん}く。又^{せん}齒^{せん}付^{せん}い^{せん}ま^{せん}ん^{せん}ぢ^{せん}う^{せん}と^{せん}す^{せん}ま^{せん}り^{せん}を^{せん}吸^{せん}吐^{せん}を^{せん}此
 や^{せん}り^{せん}あ^{せん}す^{せん}半^{せん}も^{せん}。ま^{せん}り^{せん}付^{せん}い^{せん}善^{せん}て^{せん}あ^{せん}い^{せん}く^{せん}割^{せん}て^{せん}ま^{せん}り^{せん}一
 粒^{せん}く^{せん}ま^{せん}り。く^{せん}れ^{せん}の^{せん}ま^{せん}ま^{せん}と^{せん}右^{せん}く^{せん}な^{せん}す^{せん}べ^{せん}。ま^{せん}り^{せん}善^{せん}と^{せん}ま^{せん}り^{せん}も^{せん}
 な^{せん}か^{せん}る。ち^{せん}ま^{せん}れ^{せん}を^{せん}ぬ^{せん}わ^{せん}け^{せん}。さ^{せん}ん^{せん}ま^{せん}ま^{せん}と^{せん}め^{せん}れ^{せん}方^{せん}を^{せん}上^{せん}へ^{せん}あ^{せん}て^{せん}ひ^{せん}づ^{せん}り^{せん}ふ
 粒^{せん}と^{せん}り^{せん}ち^{せん}右^{せん}ふ^{せん}て^{せん}ま^{せん}め^{せん}と^{せん}印^{せん}ど^{せん}ま^{せん}り^{せん}く^{せん}ま^{せん}り^{せん}く^{せん}先^{せん}古^{せん}法^{せん}なり。ま^{せん}り
 ち^{せん}ま^{せん}ま^{せん}を^{せん}お^{せん}さん^{せん}と^{せん}は^{せん}ら^{せん}先^{せん}粒^{せん}を^{せん}善^{せん}と^{せん}つ^{せん}み^{せん}て^{せん}お^{せん}一^{せん}並^{せん}さ^{せん}ん^{せん}を^{せん}
 茶^{せん}と^{せん}印^{せん}ど^{せん}ま^{せん}り^{せん}申^{せん}れ^{せん}り^{せん}ち^{せん}た^{せん}か^{せん}り^{せん}と^{せん}刀^{せん}の^{せん}ま^{せん}り^{せん}て^{せん}二^{せん}つ^{せん}り^{せん}な^{せん}り^{せん}て^{せん}ま^{せん}り
 か^{せん}ら^{せん}れ^{せん}く^{せん}ま^{せん}り^{せん}ま^{せん}り^{せん}ま^{せん}り^{せん}形^{せん}な^{せん}る^{せん}か^{せん}り^{せん}と^{せん}と^{せん}て^{せん}お^{せん}た

ち^{せん}。毛^{せん}又^{せん}て^{せん}い^{せん}ゆ^{せん}く^{せん}れ^{せん}ん^{せん}毛^{せん}ひ^{せん}あり
 一^{せん}吸^{せん}吐^{せん}く^{せん}ま^{せん}り。ま^{せん}り^{せん}と^{せん}ま^{せん}り^{せん}ひ^{せん}び^{せん}の^{せん}う^{せん}く^{せん}あ^{せん}り^{せん}ひ^{せん}く^{せん}ま^{せん}り^{せん}た^{せん}の
 ち^{せん}は^{せん}梳^{せん}と^{せん}り^{せん}ち^{せん}右^{せん}ま^{せん}り^{せん}と^{せん}持^{せん}た^{せん}る。ま^{せん}り^{せん}と^{せん}ま^{せん}り^{せん}た^{せん}の^{せん}ち^{せん}を
 せ^{せん}あ^{せん}ら^{せん}い^{せん}て^{せん}右^{せん}ま^{せん}り^{せん}く^{せん}り^{せん}一^{せん}を^{せん}ち^{せん}梳^{せん}の^{せん}右^{せん}の^{せん}わ^{せん}き^{せん}ま^{せん}り^{せん}
 ち^{せん}。ま^{せん}り^{せん}吸^{せん}吐^{せん}梳^{せん}と^{せん}り^{せん}あ^{せん}け^{せん}ち^{せん}と^{せん}ぬ^{せん}を^{せん}と^{せん}り^{せん}ハ^{せん}梳^{せん}と^{せん}と^{せん}
 梳^{せん}の^{せん}け^{せん}て^{せん}善^{せん}を^{せん}か^{せん}り^{せん}一^{せん}ち^{せん}一^{せん}ち^{せん}一^{せん}く^{せん}ひ^{せん}。さ^{せん}ん^{せん}と^{せん}り^{せん}と^{せん}ま^{せん}り^{せん}
 ち^{せん}。梳^{せん}と^{せん}り^{せん}右^{せん}の^{せん}ち^{せん}と^{せん}り^{せん}ま^{せん}り^{せん}持^{せん}た^{せん}る。け^{せん}を^{せん}一^{せん}口^{せん}二^{せん}ら^{せん}ち
 ち^{せん}ま^{せん}り^{せん}。ま^{せん}り^{せん}と^{せん}り^{せん}と^{せん}ひ^{せん}ど^{せん}ま^{せん}り^{せん}れ^{せん}た^{せん}あ^{せん}ん^{せん}と^{せん}一^{せん}は^{せん}ぬ^{せん}さ^{せん}ん^{せん}ん^{せん}
 ち^{せん}。ま^{せん}り^{せん}梳^{せん}た^{せん}れ^{せん}ま^{せん}り^{せん}ま^{せん}り^{せん}あり
 一^{せん}善^{せん}と^{せん}り^{せん}け^{せん}ん^{せん}て^{せん}大^{せん}か^{せん}い^{せん}く^{せん}り^{せん}ぬ^{せん}ぐ^{せん}よ^{せん}く^{せん}り^{せん}鼻^{せん}紙^{せん}を^{せん}い^{せん}り^{せん}ぬ^{せん}さ^{せん}り^{せん}
 ち^{せん}。ま^{せん}り^{せん}又^{せん}ま^{せん}り^{せん}善^{せん}人^{せん}なり。善^{せん}又^{せん}い^{せん}く^{せん}り^{せん}一^{せん}口^{せん}二^{せん}ら^{せん}ち^{せん}付^{せん}ま^{せん}り^{せん}
 ち^{せん}。ま^{せん}り^{せん}梳^{せん}た^{せん}れ^{せん}ま^{せん}り^{せん}梳^{せん}た^{せん}れ^{せん}い^{せん}く^{せん}り^{せん}一^{せん}口^{せん}二^{せん}ら^{せん}ち^{せん}付^{せん}ま^{せん}り^{せん}

女科新集方合卷之五
 〇三

ふとこゝろくひまらうまざるそのおろびなすへなう持ていら
ぬ。解かど下さきと時を右のふらありてまはる人をも
のまへおそのりあり

一強版赤版をくくさきり。若ありそをちりおそくはか
ず。おそくはまきてそとくあなり。こまもたさきのたそ
ふらあり。一づいふらぬまどたあり

一若人神人のトきさきその。懐中すそのあり。さう一解
小串をいふらぬまどをこらへいさま。さうおよのせて
おらなり

一腕版汁をうけめ。うけかきわりせくさくさうをんを
らひのこさぬそのなり。さうはんとおそ。けしよ推しけ
玉子など。うら。そのおのさそさす。さのくおそ



女形集六巻五

本由くぐりくぐりのきん。ふせむしのくさうあらし
あるせし。舞の舞くひやうけんはなるよりをたけゆく
なり。うづもぼくのう。二三の舞乃くひやうけり。はらて
をけんぬよけ入。そけいあし。のふく。いふくひわて
り。なりとも。笑ひてくもさうか。舞はけくさす。
その糸はけりてきりまき。

女諸禮集大全卷之六終

女諸禮集大全卷之六

法藝書之巻

○女智の中

いし。ハ文字といふなり。繩をむすびて人の笑とせし
あり。今右平代は代子生也。漢家にもあはし。いまた
おむけりてくさるなり。よ。帳名は。我。自は乃
趣用也。四十八字をり。何て。万さ。さ。こ。り。り。なり。ゆ
の。こ。り。と。なる。ゆり。そ。は。國。家。の。と。り。免。は。法。儀。の
ゆり。い。さ。さ。さ。か。也。男。女。と。り。お。を。と。り。お。い。ふ。金。銀。の
く。さ。り。也。女。諸。乃。り。わ。い。し。人。の。と。り。性。を。さ。す。は。た
中。なる。こ。り。女。諸。は。け。さ。さ。さ。も。心。の。さ。さ。さ。なる。さ。り。の
中。あ。ら。ぬ。こ。り。あり。ま。り。ま。り。ま。り。て。心。を。こ。め。あ。さ。ゆ。に



女
子
行
傳
大
人
卷
之
六



女
子
行
傳
大
人
卷
之
六

ありわきまありては文書ありてはなほ女子親終
のりなり。中々あり親終のりなり。一して下
ある婚礼の文あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
ろ一ひあるのかさひ。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
吊文もなほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
れよりあひやうある。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
のものを一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
中々あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
す事をも一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
菓子なり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
何の世終ひと終ひ。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。

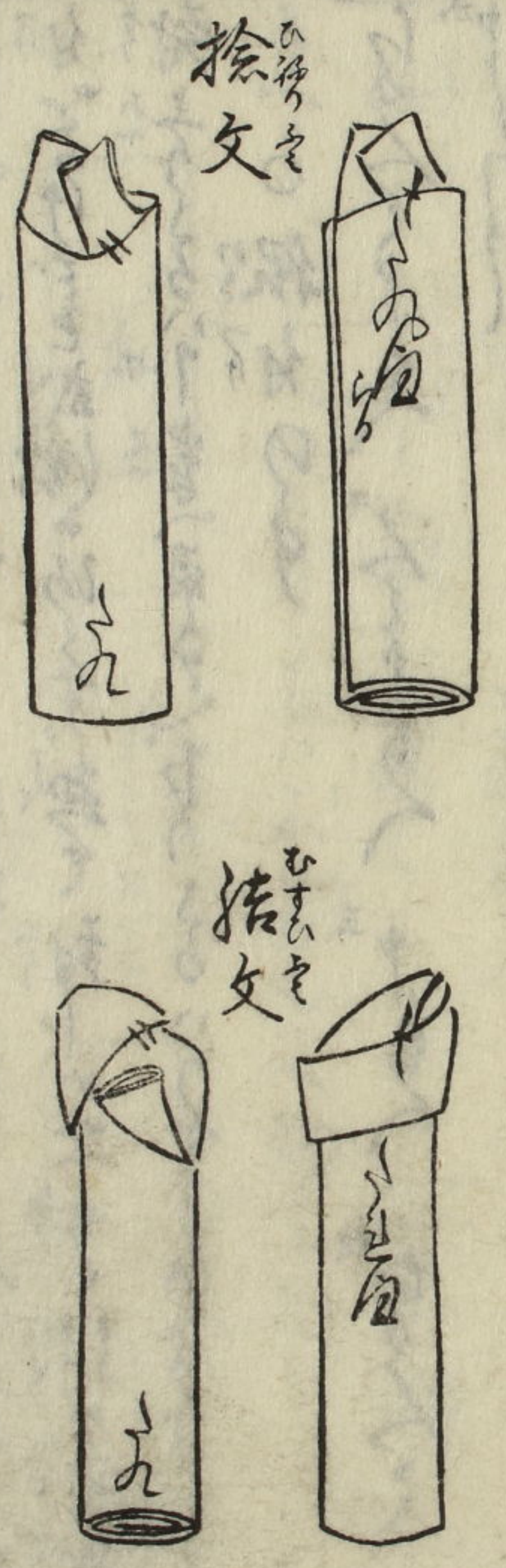
中々あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
うやまいあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
俊とあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
ありては。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
親終ひとあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
婚礼をあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
何の世終ひとあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
中々あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
次はあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
はあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
お潤とあり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。
あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。なほ一あり。

うしとひ。次よこある。何れの四と井下と。その礼
その方なり。性来と。先の安否と。このうしとひ。出せし
け方れ。用ひ。此紙と。半れりて。いふ。四と。さ。出せし
ちり。上。下。さ。り。不。礼。の。方。なり。

○料紙の本

よく。そ。い。は。ま。位。より。て。紙。の。大。小。厚。薄。あり。剛。方。毎
用。ハ。折。系。紙。を。用。ひ。し。く。と。も。そ。の。人。の。紙。より。て。紙。も
剛。方。か。陸。より。よ。き。紙。を。用。ひ。し。た。り。又。廉。末。さ。る
紙。を。つ。ふ。不。礼。な。り。大。中。二。枚。を。紙。と。い。は。し
う。と。い。て。か。付。は。文。書。れ。あ。ま。り。と。二。枚。三。枚。紙。を
て。か。く。紙。し。し。と。い。ふ。な。り。な。り。あ。ま。り。あ。ま。り。と。い。ふ。事
あり。

○文封しやうれ事



拾文。い。は。ま。ま。い。なり。不。審。ハ。む。す。い。文。と。表。を。あ。て。と。し。ち
紙。付。う。ら。ま。は。方。れ。名。を。か。く。し。今。ハ。上。中。下。三。行。し。り。て
結文。を。用。ひ。拾文。ハ。り。り。く。略。義。の。中。う。ま。ん。ゆ。り。ハ。あ。ま
ま。り。あ。ま。り。拾。中。う。纏。の。口。を。表。し。し。る。ま。の。なり。字。紙。の
あ。ま。り。と。し。ち。り。と。い。ふ。事。なり。又。と。い。ふ。時。も。ん。は

書き出し。いまり幅きすきいへんくす。大中う紙を一段
とんて。紙のつけいれす書も。又一尺き二寸あすきして色
紙あへんはなり。きんとるる紙の上をさか。下を口を
とめぬ。結文はのむすびめな志によりて。文よきぬら
る。一の心をきいませ。きんへいよふかいと志す。

○ 綴封のり

一 封文の上中下まかき。綴封あり。今いふ下で綴
封より。綴封のり。綴封のり。綴封のり。綴封のり。

○ 口封のり

一 封文の上中下まかき。綴封あり。今いふ下で綴
封より。綴封のり。綴封のり。綴封のり。綴封のり。

一 封文の上中下まかき。綴封あり。今いふ下で綴
封より。綴封のり。綴封のり。綴封のり。綴封のり。



封め紙書は
まんをすて封する
なり



右より封
しるるに
吊文をす

一 封文をうけてをまき。綴封あり。今いふ下で綴
封より。綴封のり。綴封のり。綴封のり。綴封のり。

○ 四季文章 綴封の文

山月子きん文

改らるししはまは山喜の
杉のし事よの井のし
口播種くはのし
山月の子は万代の
とんはし
と何れし
吾家よ
ま

川月三日

屋ぶらのちりては目
とて
山雛の
たり
一折
おま
この女

六月廿一日

薄うし引なる哉ありしは出候の程お
候しと候まじゆりはるなりしに
あまの影の清ねあまのわりの唄
あまはほれ知れぬはなる先もあま
くしと候と折しとありましと候と候
あまの程中把晒布正

あまの程中把晒布正

七月七日

あまは星合にその心まもる
あまの程中把晒布正
一入りの目あはれをまもる
あまの程中把晒布正
あまの程中把晒布正
あまの程中把晒布正
あまの程中把晒布正

八月朔日

田北面流山移ひ目あへて移りし
 しく文の世やは故の志をいかに
 風乃音の素をわたりしらぬをこれ
 舟を舟月の夜をいかにさやう
 海を舟の行をいかにいかに
 け一翫をいかにいかにいかに
 心あへていかにいかにいかに

九月九日

兼成主簿の清き子年をいかに
 心北をいかにいかにいかに
 中河をいかにいかにいかに
 きの中をいかにいかにいかに
 舟をいかにいかにいかに
 舟の業をいかにいかにいかに
 舟の業をいかにいかにいかに

裁書

ねんじり とうきと隣にすむし
 とおひのやま
 山登くともいふし書 女法和集
 りしし山とくともいふし書
 志うのちう好む書めくし山か
 め裁く裁くて授りし年子所
 裁書世一いふ裁書の海あつし
 ようきと隣にすむし書めくし山か
 目かくし山登くともいふし書



結納

おとよ 月夜 山崎の 一はら 雲の 舟に
君目 とも 神の ちの 舟の 舟の 舟の
志新 一はら 山崎の 山崎の 舟の 舟の
修言 山崎の 舟の 舟の 舟の 舟の
一はら 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の

婚終

一筆 中河 けりし 山崎 礼を 尾の
山崎 山崎の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

舟の 舟の
舟の 舟の

日通す

由文下るはあし作のし
婚後跡子あはれおのひす
少くははれししおのひす
月事一たり送るはし
おのひす納まるはし
心礼あはれし

お日通す

お日通す
由文下るはあし作のし
婚後跡子あはれおのひす
少くははれししおのひす
月事一たり送るはし
おのひす納まるはし
心礼あはれし

お日通す

一書一冊にしき物に由りて
一山一谷のしき物に由りて
一舟一馬のしき物に由りて
一物一物のしき物に由りて
一色一色のしき物に由りて
一音一音のしき物に由りて
一香一香のしき物に由りて
一味一味のしき物に由りて
一氣一氣のしき物に由りて
一血一血のしき物に由りて

右文神册方冊をあらわすに
一冊一冊のしき物に由りて
一山一谷のしき物に由りて
一舟一馬のしき物に由りて
一物一物のしき物に由りて
一色一色のしき物に由りて
一音一音のしき物に由りて
一香一香のしき物に由りて
一味一味のしき物に由りて
一氣一氣のしき物に由りて
一血一血のしき物に由りて

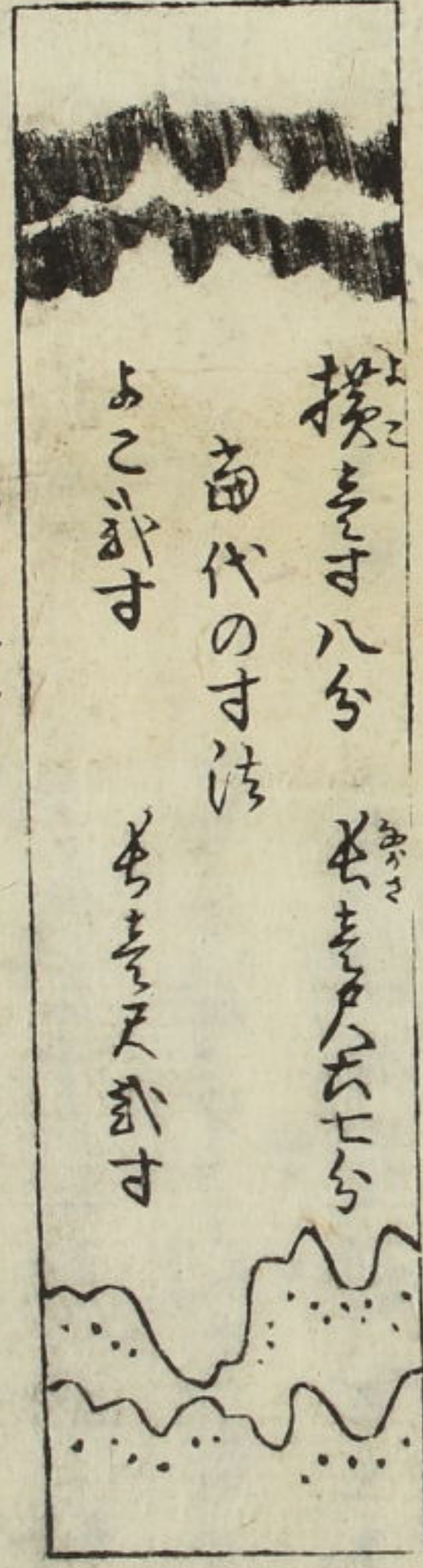
○ 經冊を紙寸法は
一冊一冊のしき物に由りて
一山一谷のしき物に由りて
一舟一馬のしき物に由りて
一物一物のしき物に由りて
一色一色のしき物に由りて
一音一音のしき物に由りて
一香一香のしき物に由りて
一味一味のしき物に由りて
一氣一氣のしき物に由りて
一血一血のしき物に由りて

海一きりなり

一白
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

懸と名とをさき。上の白より一白あげて下の白をすこむる
なり。そのより名をわんごあし。なれりきりきり。きりきり上の白
と同一色なり。一懸のきりきりきりきり。きりきり懸の文を
きりきりきりきり。きりきりきりきりきりきりきりきりきり
きりきり。下の白も上れがあら。きりきりきりきりきりきり
にま懸の懸冊の上よりきりきりきりきりきりきりきりきり
折の下。きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
より。下の白も上れがあら。きりきりきりきりきりきりきりきり

のどく。我よりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
なり。懸冊のきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり
先貴既あり。うちきりきりきりきりきりきりきりきりきり
すり。秋のきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり



うちきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり
きりきりきりきりきりきりきりきり

〇和歌を嗜むはさうなり

ともわかたれ我の風をそそぐはくはよらうす。たのしの
 風をそそぐは合ぞとよらうなきは。まことなめじさき風の風情
 あくすなまうれをもたく者家するは日用は深きあはらうこ
 ろまきすもゆりなん。ゆゆる身は井一ん可くさるゆりたふ
 和歌集の序は。花はあく言あふすむかまうは。たふとさけは
 いさういさうもの。いさうあさよゆらうん。ちかうさよいさま
 してあつちさうごわ。自ら見ぬ思神もあつちとあそ
 るせ男女のあそもをけけ種まよのぬのんともあぐ
 さしるは。あたりとさうりあて

なまははまきくまこのんを冬より今んさうとさうこの花
 けか仁は事なるをばして見ること。さう一人ふきを海もさう

ころはあつちさうごわ。自ら見ぬ思神もあつちとあそ
 るせ男女のあそもをけけ種まよのぬのんともあぐ
 さしるは。あたりとさうりあて

けかあつちさうごわ。自ら見ぬ思神もあつちとあそ
 るせ男女のあそもをけけ種まよのぬのんともあぐ
 さしるは。あたりとさうりあて

居たりしあり。まゝおぼしめぬと。右の事を懐懐中此
其のふりして脱着とする事。なまゝふり供のま
去始とする事。なまゝありん

君が代はちよるちよる。まの石の敷とありて。若し
百代と云ふは。心をちよる。百代と云ふは。心を
夢覚れ。是のまゝかゝる。從ふまゝさうなる

女徳後集大金巻之六終

女徳後集大金巻之七

秋かきとれ半

身かきといふ。いせおがら。此新を。上下れが。とけて
かき二枚。して。元より。そは。小余。多紙の。秋を。まて。かき
とせり。今。毎用。して。け。百人。一。首。れ。かき。と。り。ち。あ。ら。な。り
秋かきと。紙。と。い。ふ。ま。う。と。い。ふ。い。ひ。う。あ。り。の。業。平。侍
摺の。巻。へ。か。り。れ。使。ひ。し。き。ん。秋。宮の。女。侍。と。ま。ん。な。り。と
か。り。あ。ん。と。す。る。あ。け。が。女。の。か。き。う。り。さ。う。何。れ。さ。う。し
お。は。ま。て。い。づ。と。い。ふ。さ。う。と。い。ふ。れ。か。ち。ち。部。の。の。り。と。ま。ぬ
ま。ぬ。え。り。と。い。ふ。と。か。さ。と。す。く。な。り。と。い。ふ。と。い。ふ。は。い。ま。ら。る
す。と。い。て。秋。の。ま。ん。と。か。く。ま。の。何。れ。さ。う。れ。き。れ。か。え。あ。ん。や
い。や。ま。の。か。ら。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。は。い。ま。ら。る。の。事。な。り

けりしやといひて。上中世をうけて。かぞへりし。ある
 きりたりて。秋かきをし。いま州といふあり

貝柵の事

嫁入の物也。一畫は。衣。二畫は。貝柵。を。ひ。たり
 と。は。蛤。も。飛。を。や。う。き。ま。か。り。し。中。の。ま。ま。さ。き。ま
 り。や。う。づ。ま。を。つ。き。と。見。け。か。く。れ。ま。が。や。う。ち。る。貝。海。色
 を。も。貝。を。陰。陽。と。え。へ。合。す。耐。に。中。れ。ち。が。は。り。て。若。月
 くりと。あ。貝。の。子。可。し。也。ま。ま。き。の。し。つ。よ。き。も。か。く。乃
 ど。く。ま。れ。な。ら。し。貝。の。ど。く。は。あ。の。ま。わ。ん。そ。の。お。れ。貝。の
 合。る。を。女。の。標。し。り。な。り。統。して。貝。柵。ひ。れ。お。を。替。え
 る。半。あり。さ。し。貝。は。お。ひ。や。う。陽。と。お。貝。と。名。付。陰。を
 と。貝。と。定。て。先。の。貝。を。な。し。て。は。お。貝。は。い。や。す。あり。

お。貝。の。し。す。り。ま。も。お。お。す。り。あり。ぞ。り。や。う。た。の。も。を。実
 右。て。合。せ。る。た。り。貝。の。子。を。し。き。ぬ。や。う。し。ん。定。め
 る。人。も。や。り。勢。也。お。し。貝。合。は。か。き。い。れ。し。ん。は。し。り。は。と
 ね。あ。り。す。で。か。く。む。之。自。と。付。ま。じ。は。我。子。あり。あ。り。を。れ
 あり。と。り。に。女。席。の。耐。の。し。り。と。お。か。い。は。り。と。と
 向。あ。あ。の。び。び。び。て。ら。り。と。お。し。り。を。あ。か。し。

貝柵の本

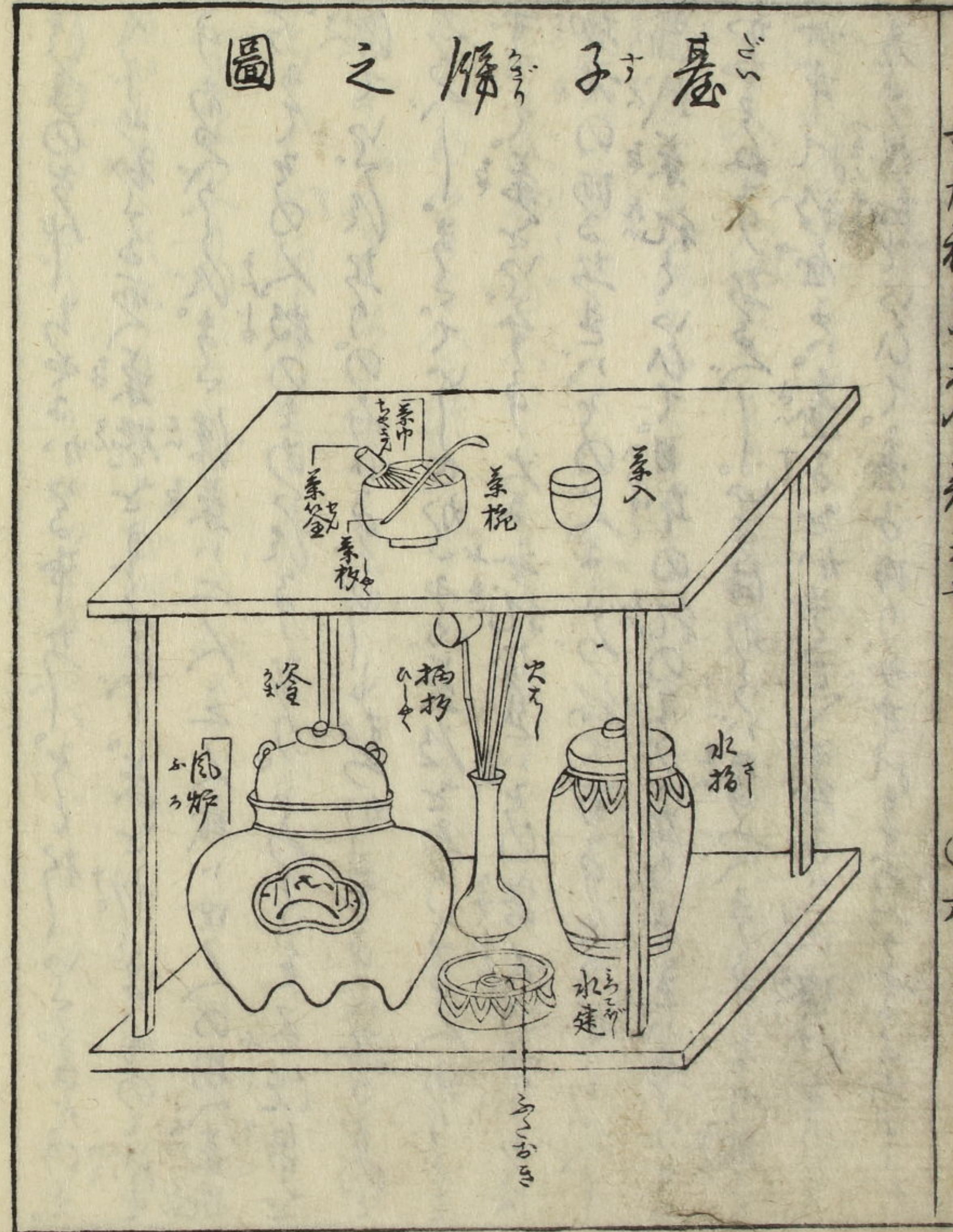
龜甲は。備八卦。一。回。法。の。形。を。成。り。外。の。耐
 陰。も。内。を。括。め。る。と。或。は。令。報。を。さ。り。形。も。あ。る。お。貝
 第。た。は。一。画。は。貝。第。の。右。に。行。く。貝。と。わ。り。言。耐。の。し。り
 あり。貝。の。素。名。を。用。也。之。百。六。十。卦。對。之。大。卦。或。は。九。の。二。寸。子
 き。は。ま。り。之。六。十。卦。は。係。法。百。字。也。百。字。第。一。卦。は。乾。也。

本卷は。集。大。令。卷。之。二

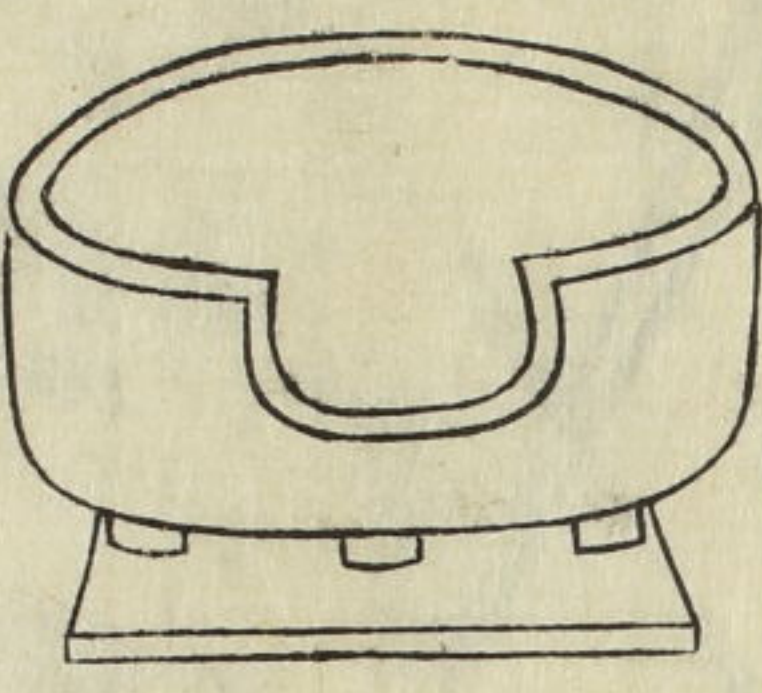
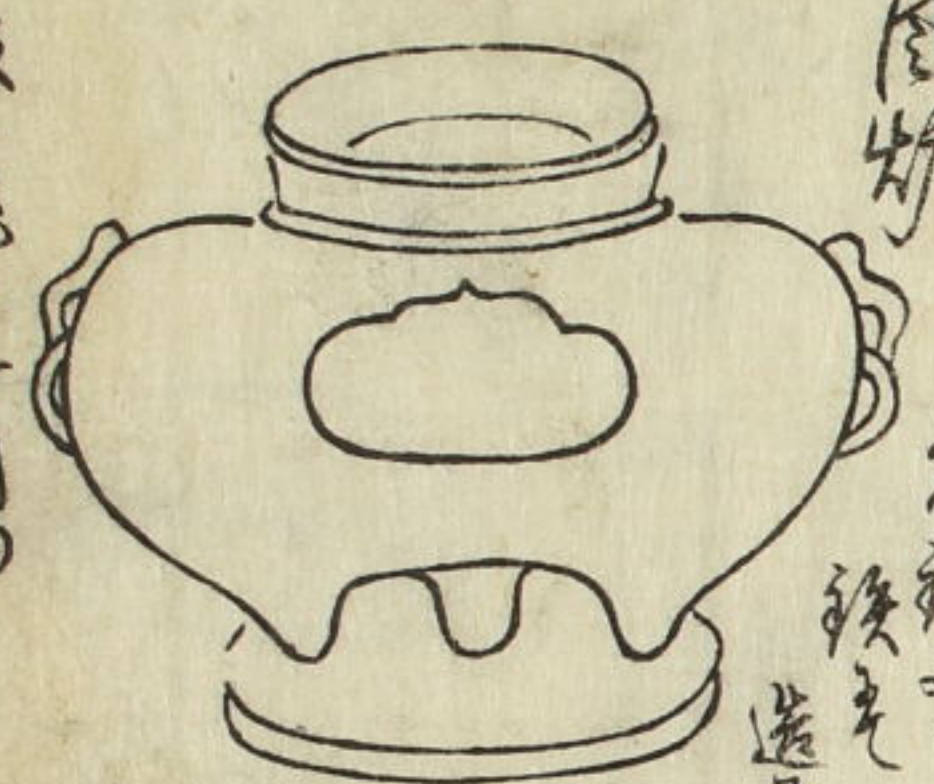


Vertical text on the right edge of the page, likely a chapter or page number, written in small characters.

臺子之圖



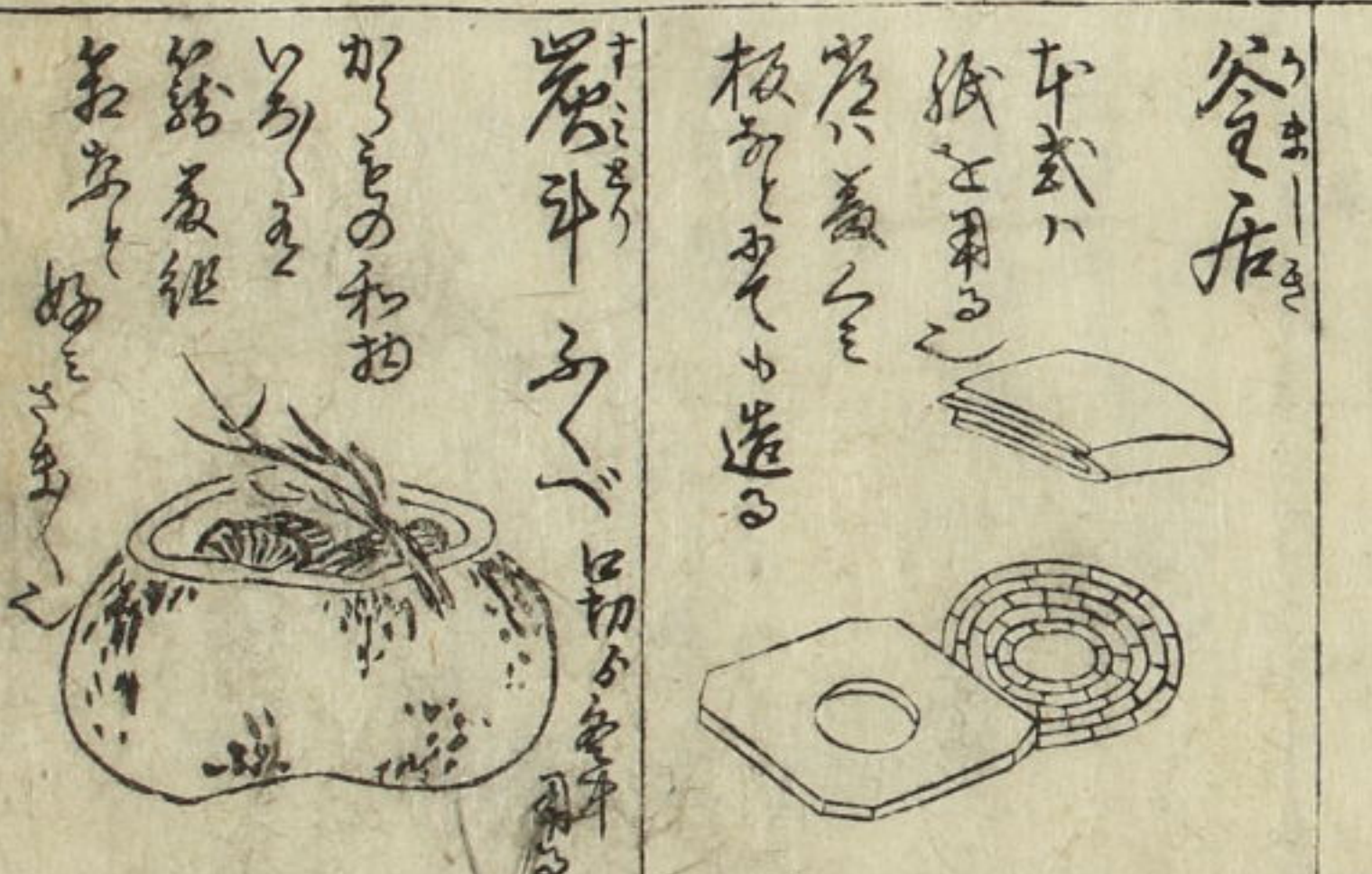
臺子之圖



小板田方之釜

板ハ丸三ノ用也

釜 釜 釜



五徳 五徳



六十七

六

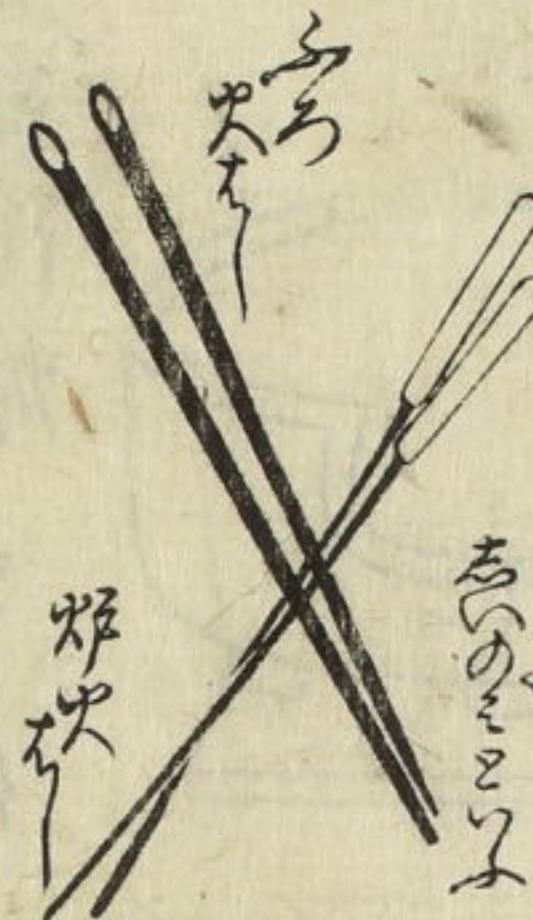
灰土箱 大まき



灰土子 折竹行



大節 志願を他の方
にも用ひ
志願のこころ



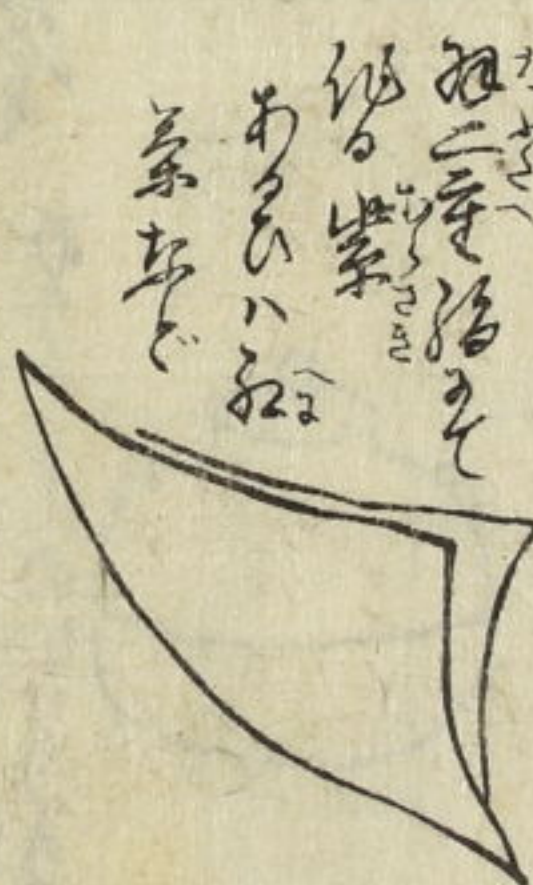
微鉄去録



香盒 東京あまの
かお和との



不洗巾



水壺 和原
大細



茶椀



玉目目巻



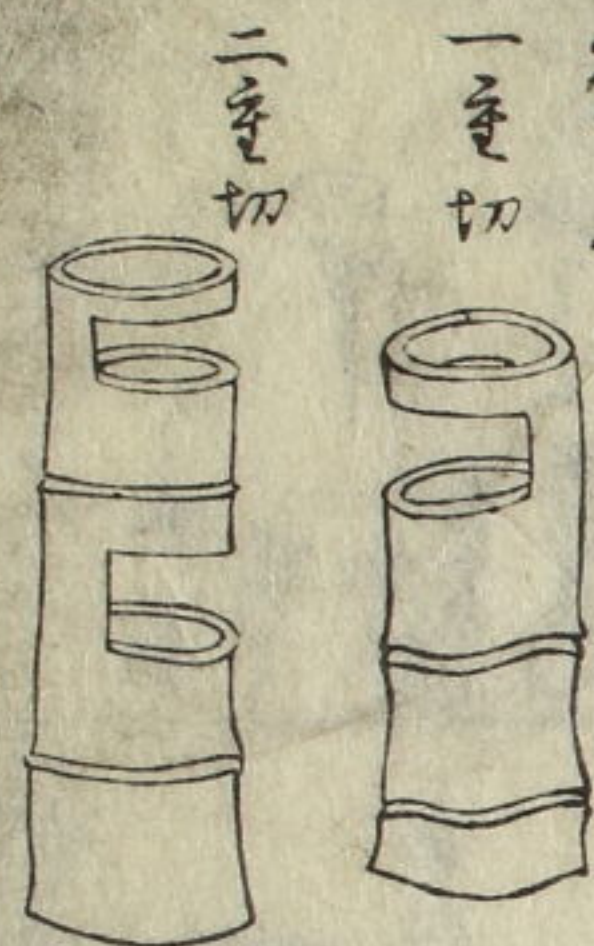
挿抄



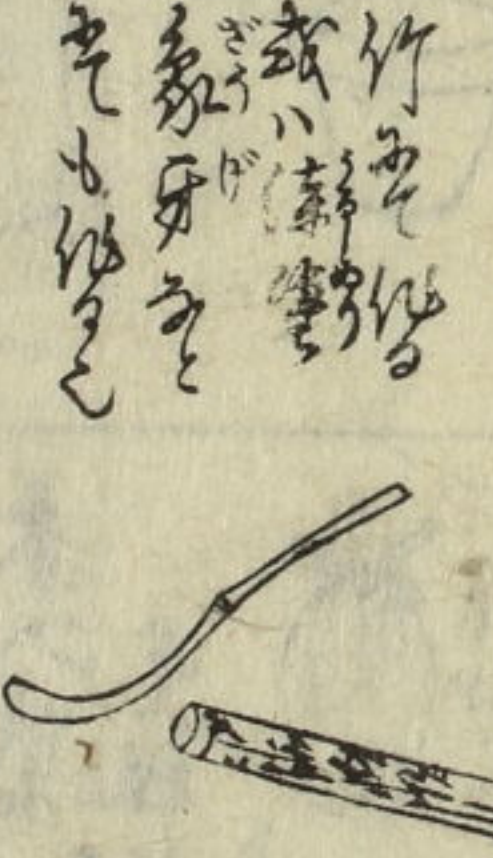
茶巾 布巾



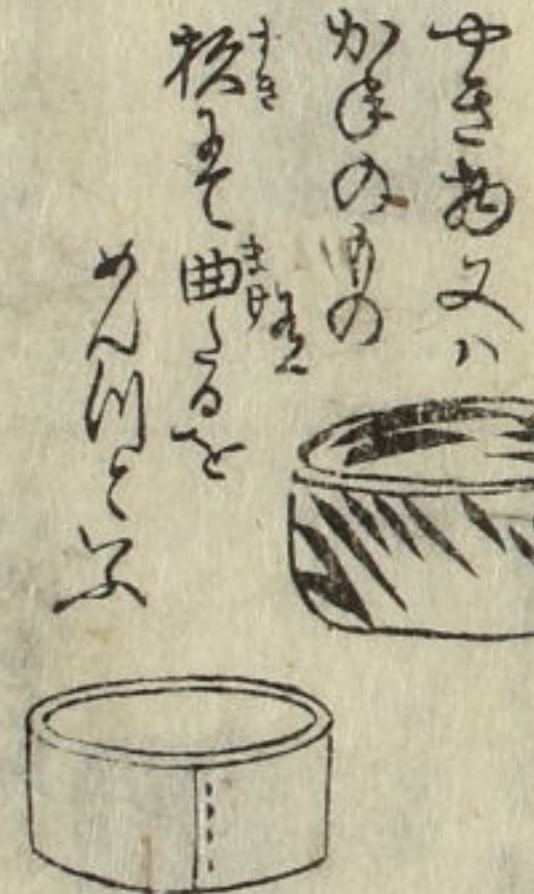
花筒



茶抄



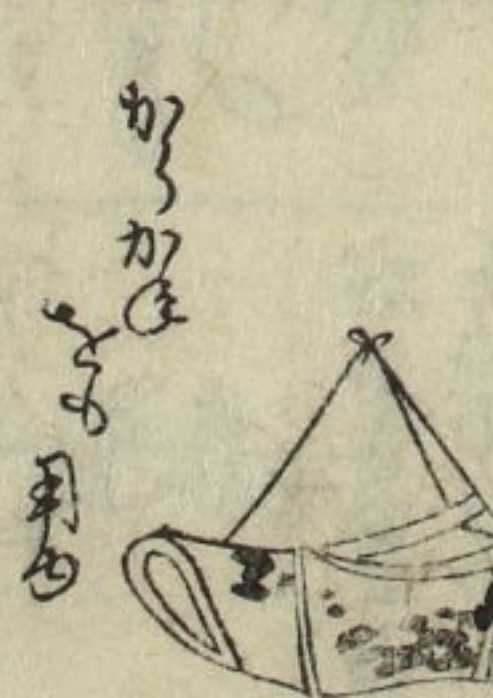
水達



掛お生 陶

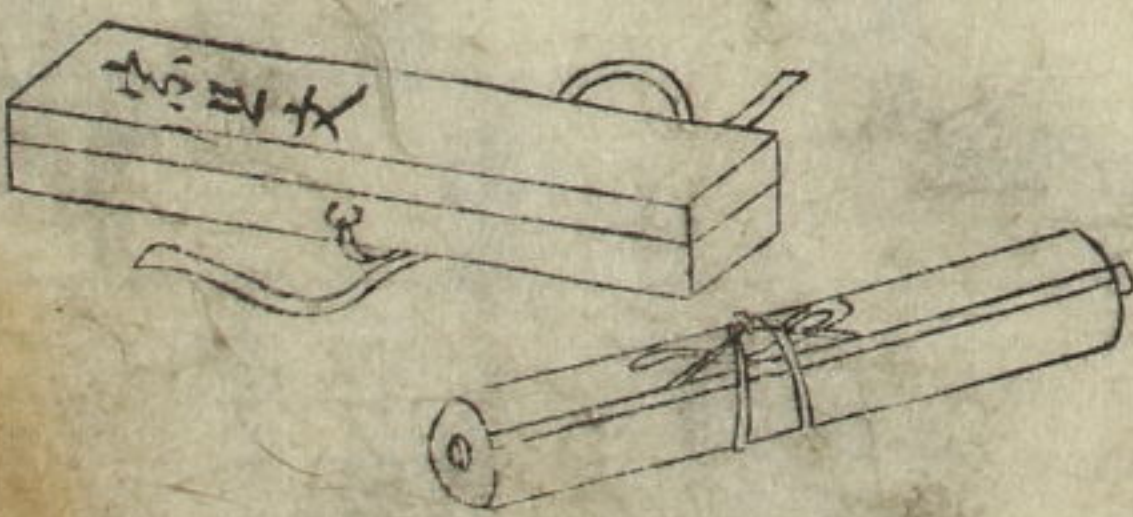


釣花入



折の度と脚度と云風折
の度と音洞と云風折

掛お



有り何れにせん。戸障子のことあり。紙花のこともあつた。白障子のこともあつた。香の付しをいと云ふ。用多き香をいふ。とある人か。紙

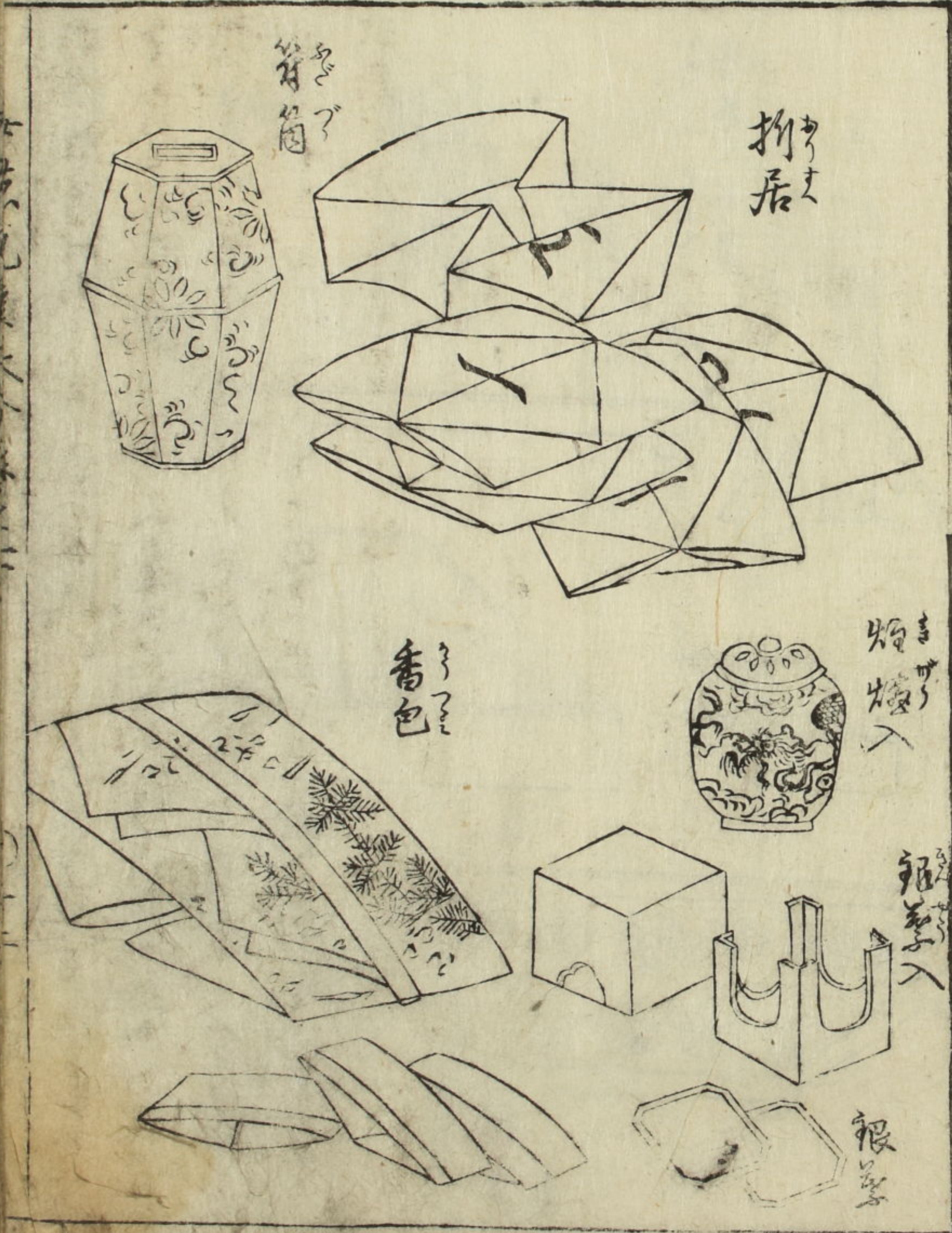
一番一紙のうち他人とて香をいふ。紙花のこともあつた。二香の香の付しをいと云ふ。用多き香をいふ。とある人か。紙

一番一紙のうち他人とて香をいふ。紙花のこともあつた。二香の香の付しをいと云ふ。用多き香をいふ。とある人か。紙

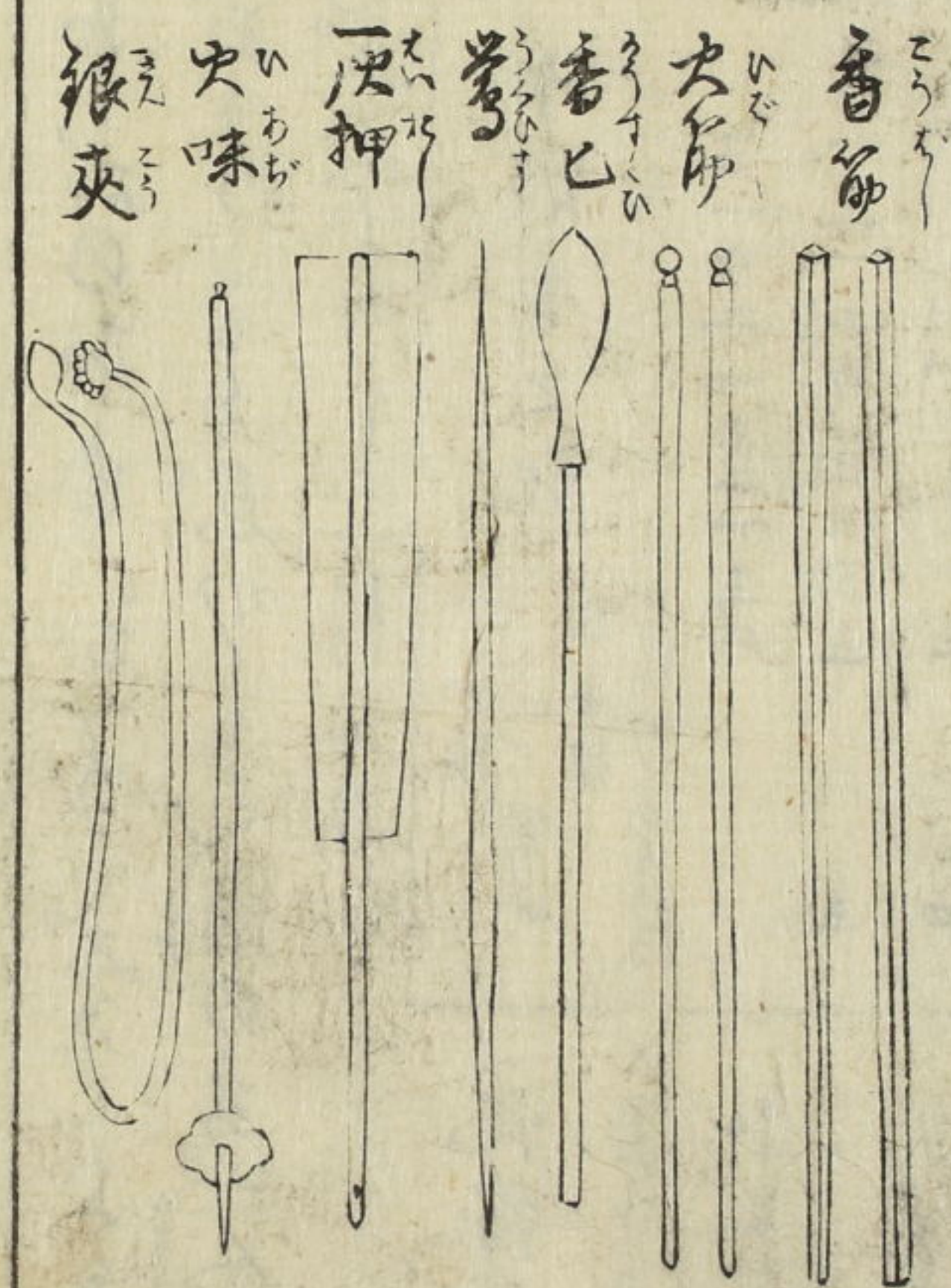
志うと云ふ。志うが。とかくも。紙花のこともあつた。二香の香の付しをいと云ふ。用多き香をいふ。とある人か。紙

○十煙香の事

香曰煙なり。一二に試あり。ある香は試あり。一の香は試あり。二の香は試あり。三の香は試あり。四の香は試あり。五の香は試あり。六の香は試あり。七の香は試あり。八の香は試あり。九の香は試あり。十の香は試あり。

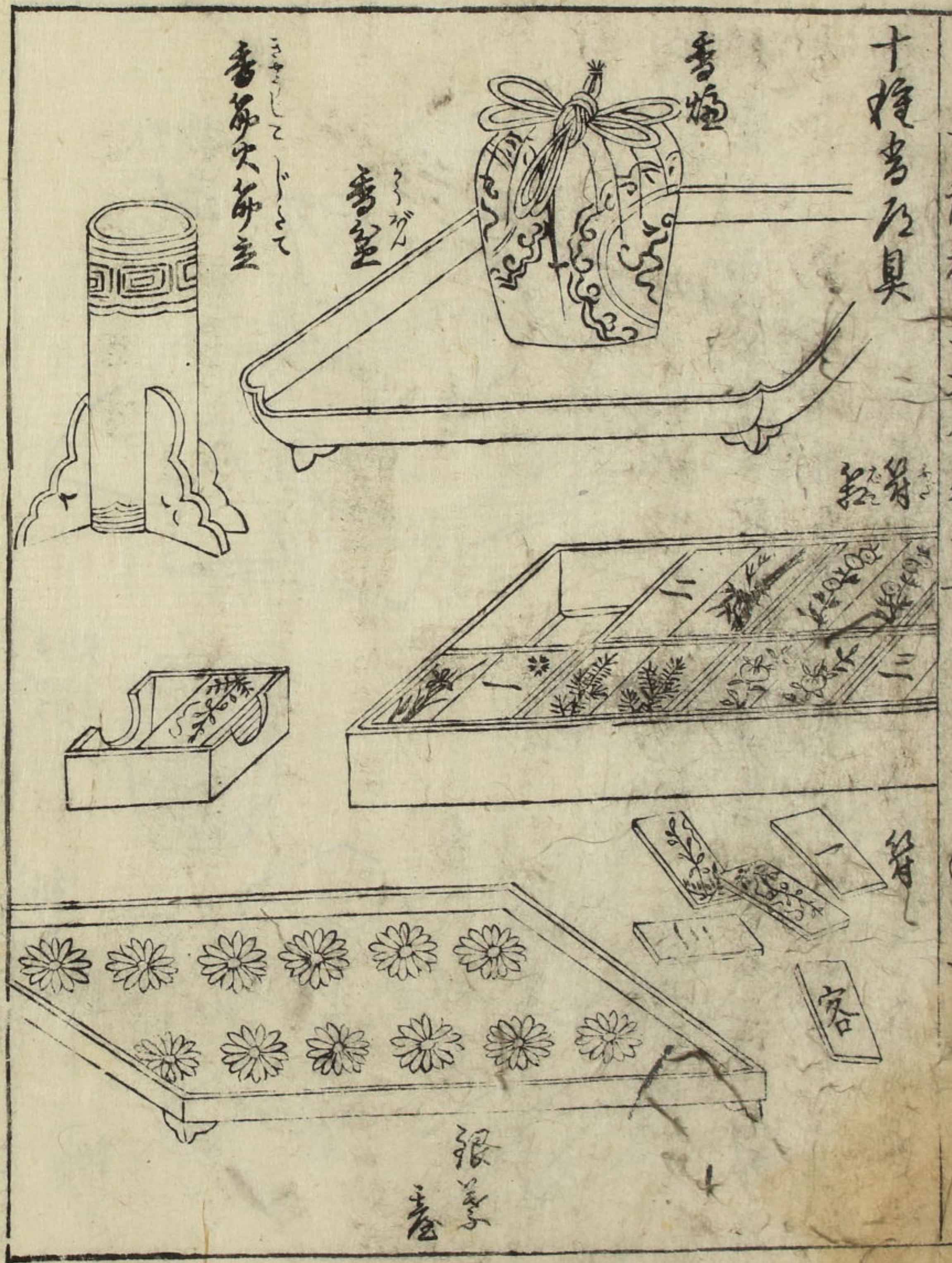


右ノ煙燵此ありまゝと存ん。今ハハノ煙燵ハハノ日
 を合すくちりか。又香燵ハハノ煙燵ハハノ日
 敷多ハハノ煙燵ハハノ日。ハハノ煙燵ハハノ日
 臭の香を合して。初ハハノ煙燵ハハノ日。ハハノ煙燵ハハノ日
 付及合してハハノ煙燵ハハノ日。



以上ノ器具

十持書局具



香爐

香盒

香炉火盆

香

香

香

香

沈病救急方

此方醫者誠志の存りのひとらなり。人のみこむられて
 去る處んはへんがら。今あるのせゆは。難病なり。あり
 あり。茶を煮て。試て。給るものあり。風を。暑。濕。は。何
 ぞ。醫者。前。法。度。の。終。い。へ。ん。ま。く。療。治。な。り。か。こ。こ。の
 事。り。医。作。と。す。も。さ。り。く。あ。り。ひ。て。か。ろ。く。後。に。年。う。ど。を
 終。す。る。の。は。い。ふ。ん
 一 停身の 硫黄を粉りて耳へ吹入て。湯を煮て。す。り。
 一 糖氣の 白糖と。銅線。丹。丸。者。を。粉。り。て。好。ろ。を。す。り。一。夕。月。小
 二 交。り。好。く。わ。き。ぐ。れ。根。を。煮。て。す。り。て。好。ろ。を。す。り。一。夕。月。小

大志心

〇一二

一 びいりい。そがまゝ一 居んそめ。又そがまゝ一 がひとれ
 くらもを付。二 居んそめ。上のそめい。海うまゆえん入てり
 一 舞て葉色ハそくがまゝ下どあてして。芳ちやハゆらん又
 悪葉ハろた。喜葉ハろたとゆらんそて。いりやうももあめま
 志をかひて清きもの。海うまむめ海うまひめ付まなり
 一 葉とあハ松のちるまゆひハ 茄子本 故地のかうまゝも清
 あり。何れもハあまゆきてすことなり。こまかまゝまきて豆の汁
 せりまきて清きなり

一 みるしりハト地をそくあて。移つてさうすくかけま
 一 あい移つてとよハ 産の汁ハ 氣を合きて清き

○ 志をまのねそくやうせり
 一 衣ね油の付るハ 故粉を一分とよ敷て。よま紙をたき



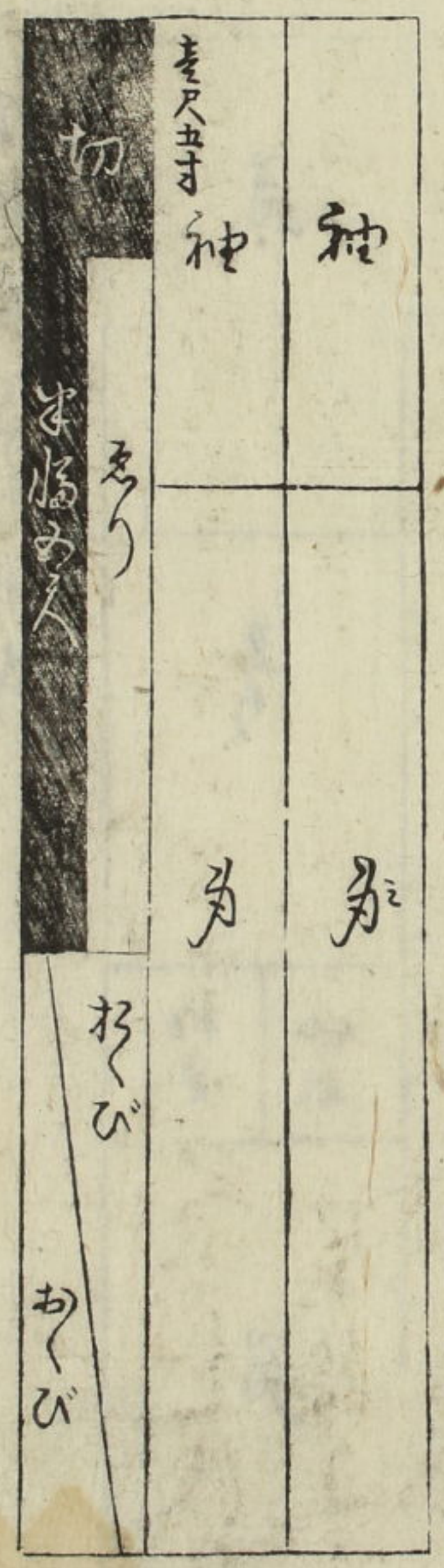
そのらへし油のつさしるものとかきひ。又その上は紙をさして
 上まは粉を一分加へて。紙をたれりとて。紙をさして。油の
 少く上をわさむるもの。

一 だごの中はこれにする。みそけしを何れにする。
 一 血の付るは生姜汁をせあう。ぬる。
 一 煎して油垢をけす。志をひんさる。何れにする。

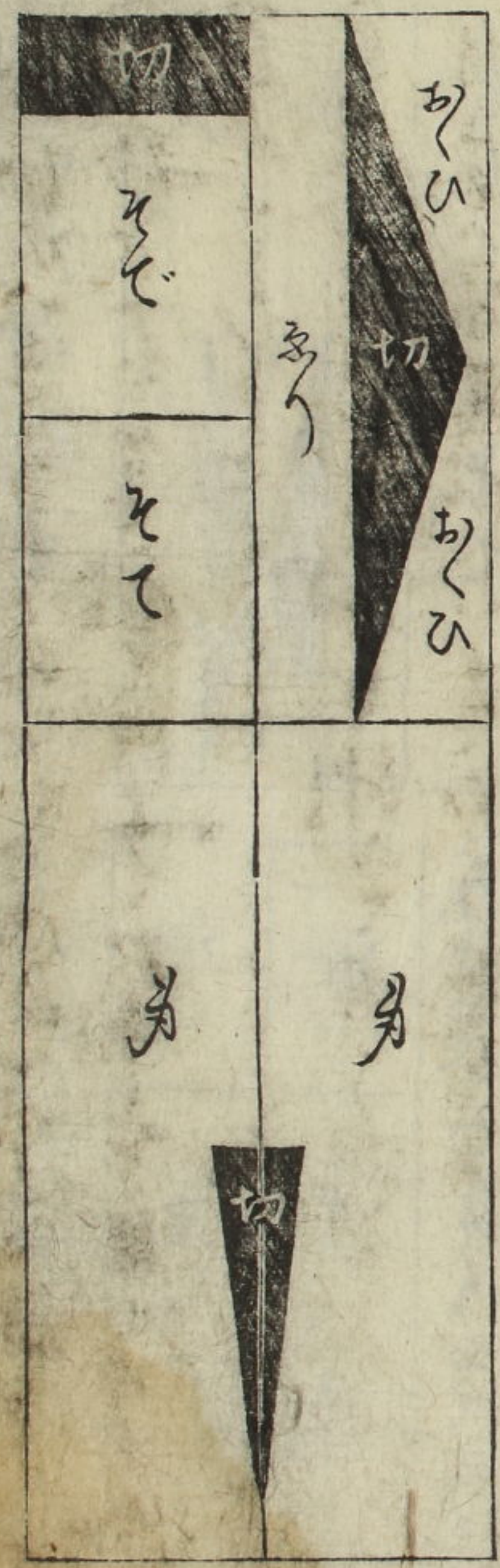
○ 呉後裁かられ申

一 裁とのり。何れにする。とす。とす。とす。とす。とす。
 一 手付け。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。
 一 中。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。
 一 縦。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。とす。

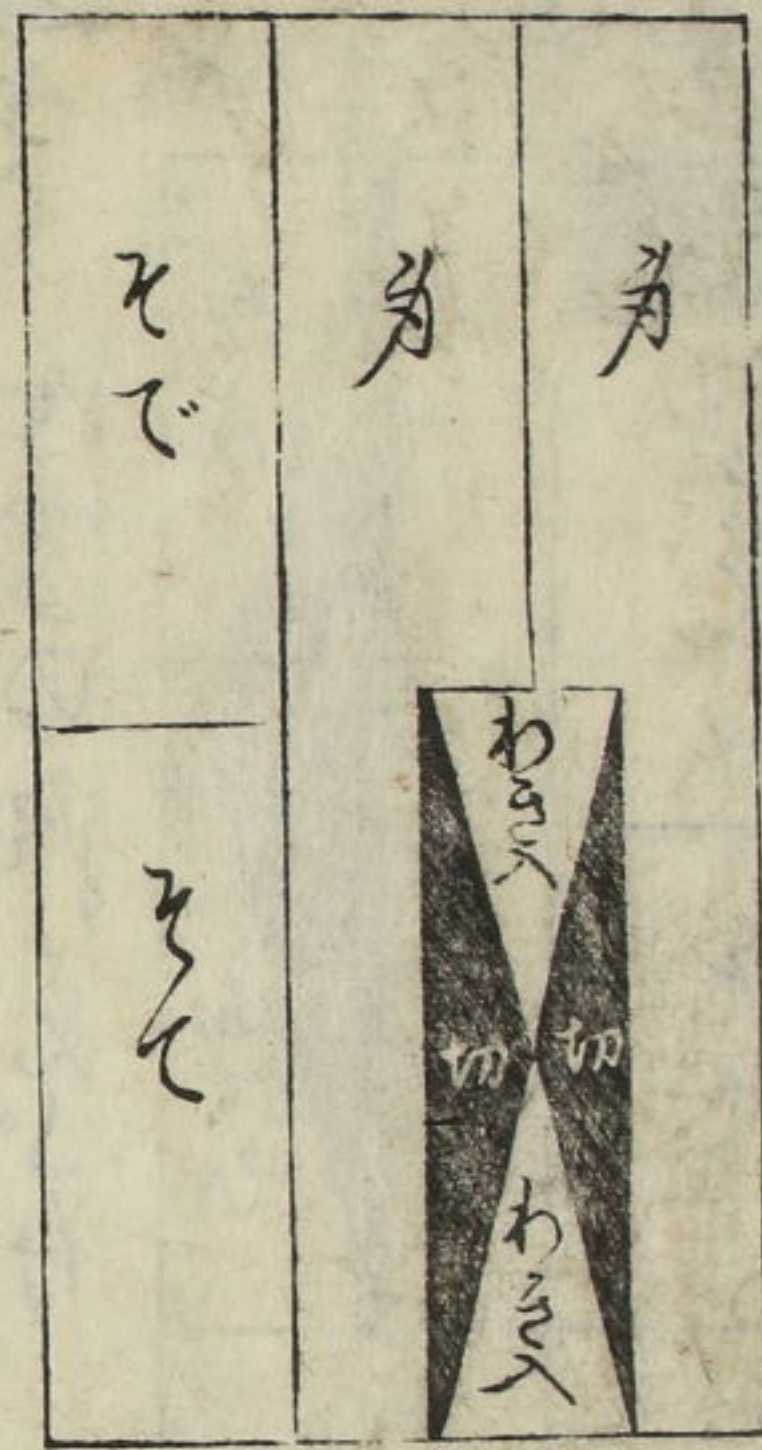
海氣の裁。三幅おき。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。けり。
 ぬる。



ちゆすき。ちゆすきの裁。ちゆすき。



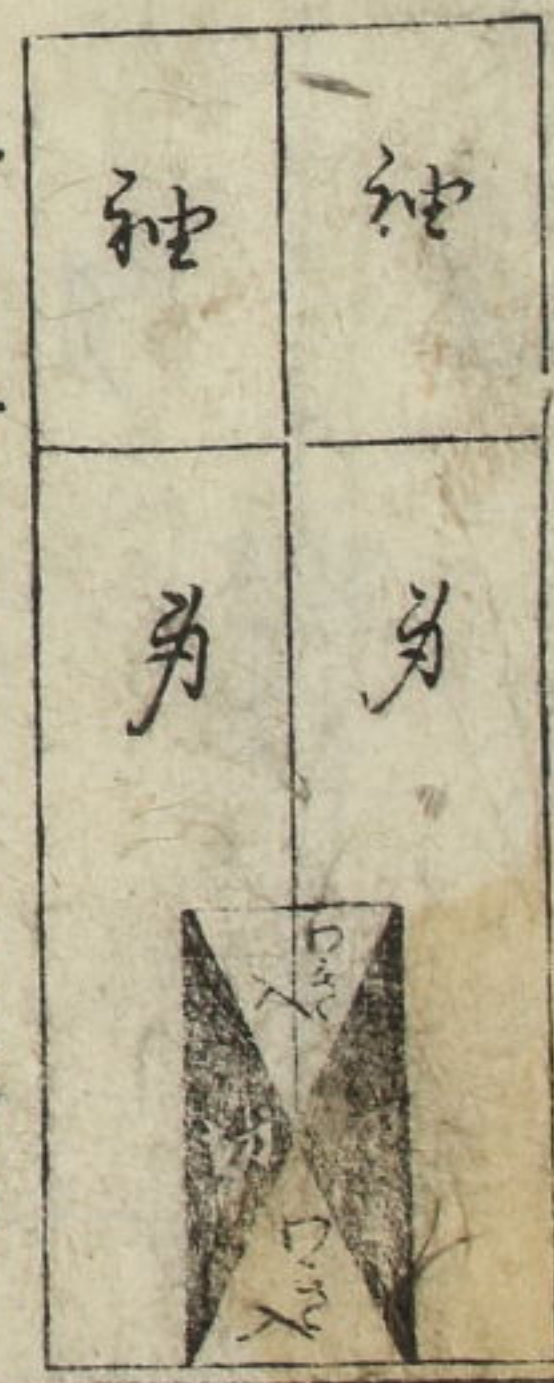
かいまのねお織裏



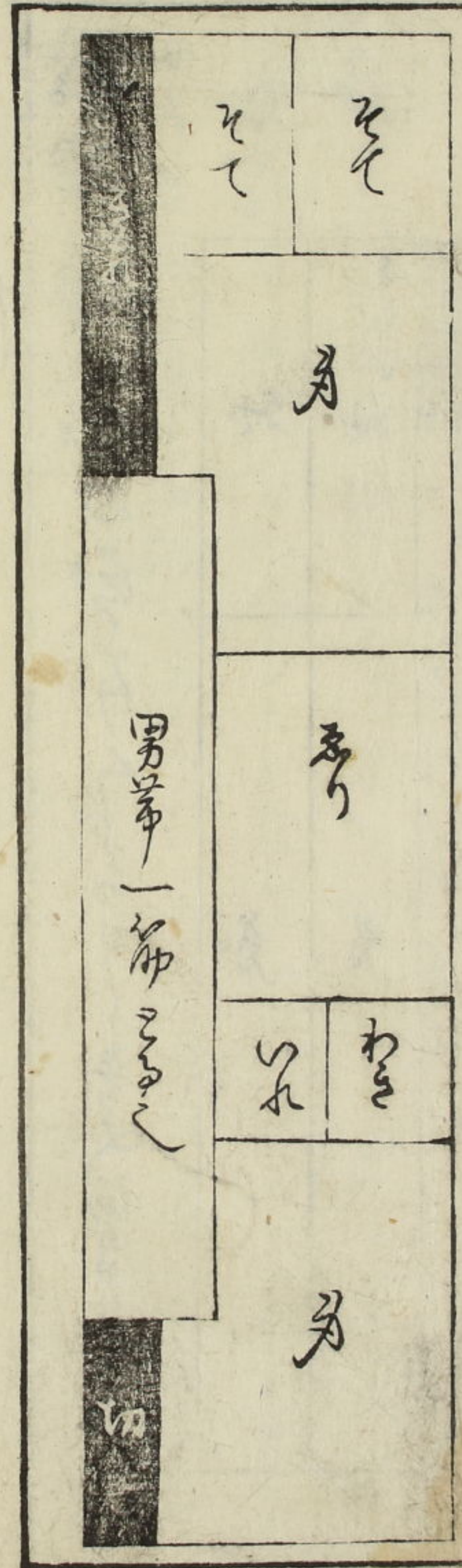
うらわのねお織り

ささのねお織り

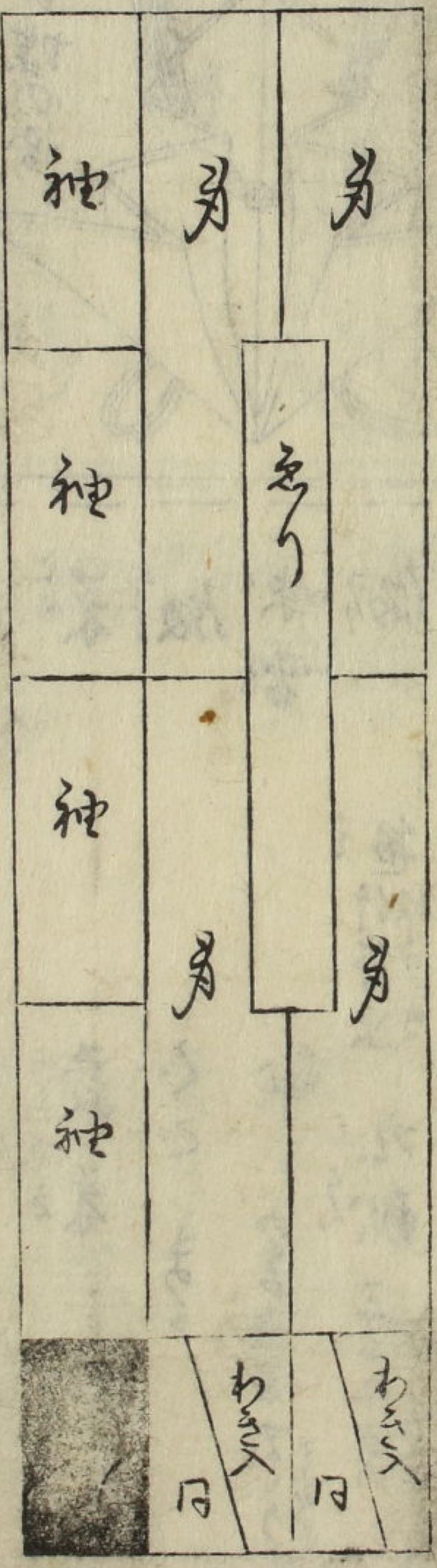
どんまのねお織り



うらわのねお織り



之幅高のねお織り裏ねおあめんごらきお織り



ねお織り此多のねお織り

麻上帯ねお織り上八尺 下七丈九尺

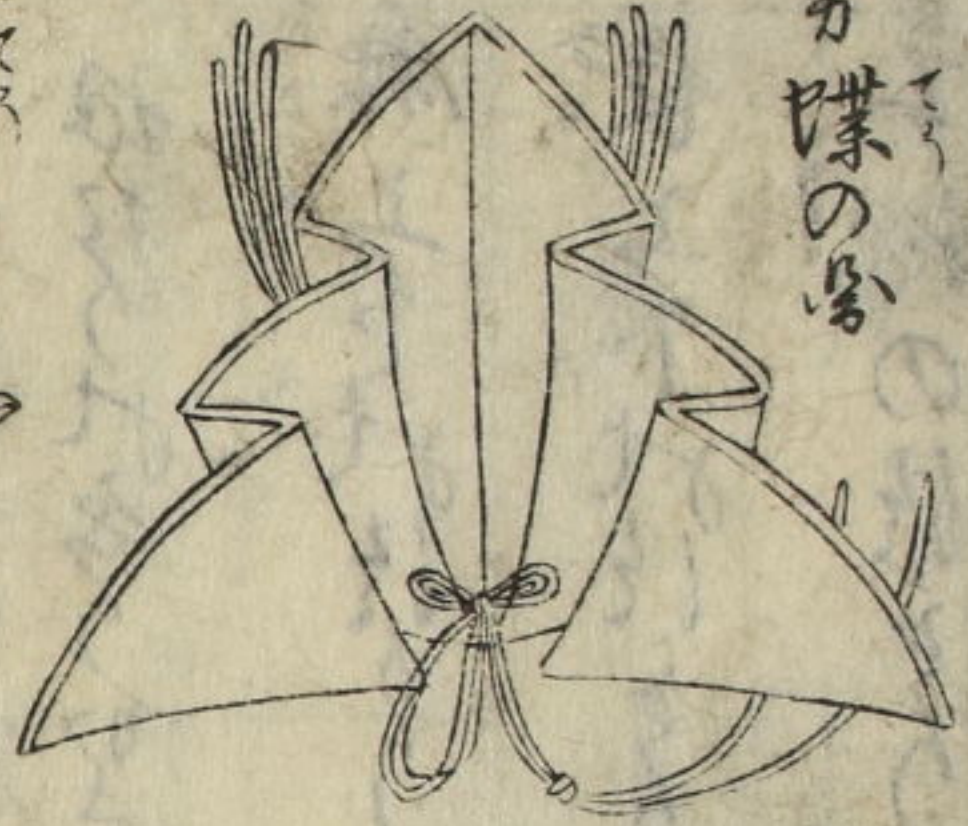
長上下ねお織り上四尺 下三丈四尺

素袍のねお織り上三丈二尺 下三丈四尺

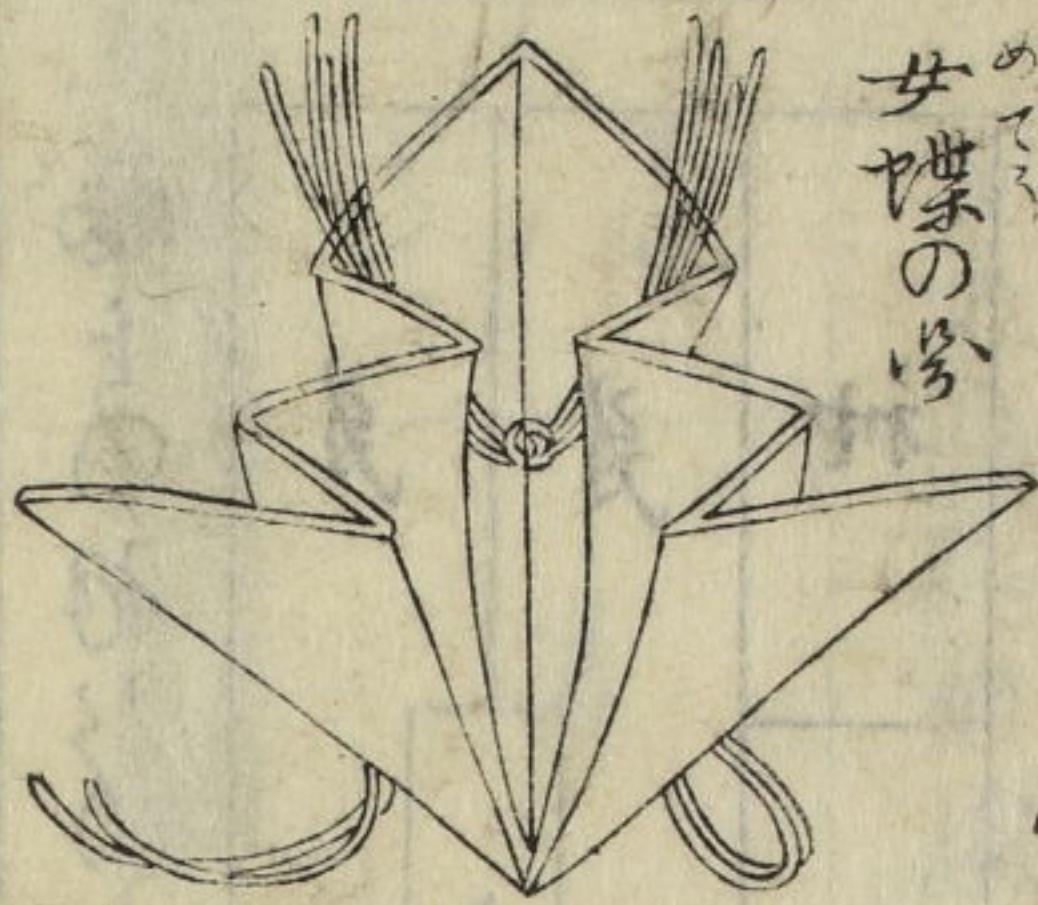
裁尺七寸五分六厘 下四尺二寸五分六厘

色紙の巻

男蝶の巻



女蝶の巻



大和の巻

巻紙

布子

帯

内衣

女着

茶

飯

味噌

酒

破

小とで

巾着

おしり

おしり

おしり

おしり

おしり

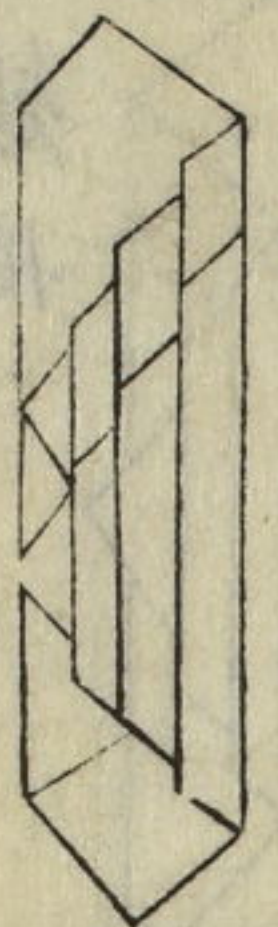
おしり

おしり

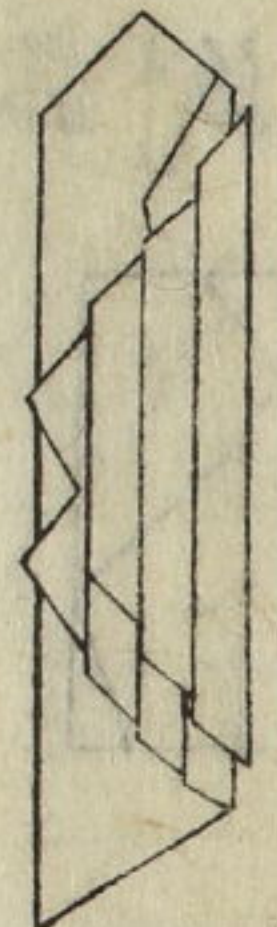
おしり

おしり

引籠



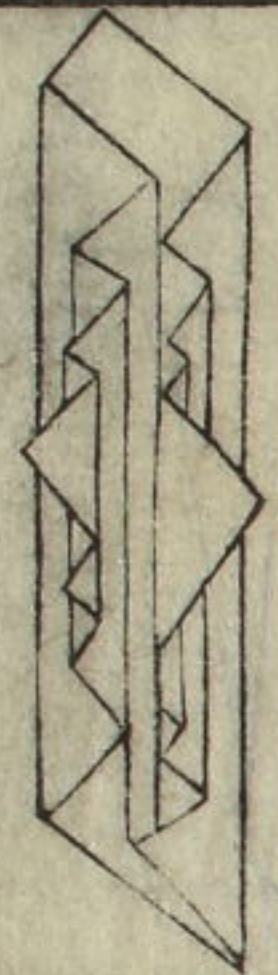
日籠



日籠



板の巻



巻紙

布子

帯

内衣

女着

茶

飯

味噌

酒

破

破

破

巻紙

布子

帯

内衣

女着

茶

飯

味噌

酒

破

破

破

巻紙

布子

帯

内衣

女着

茶

飯

味噌

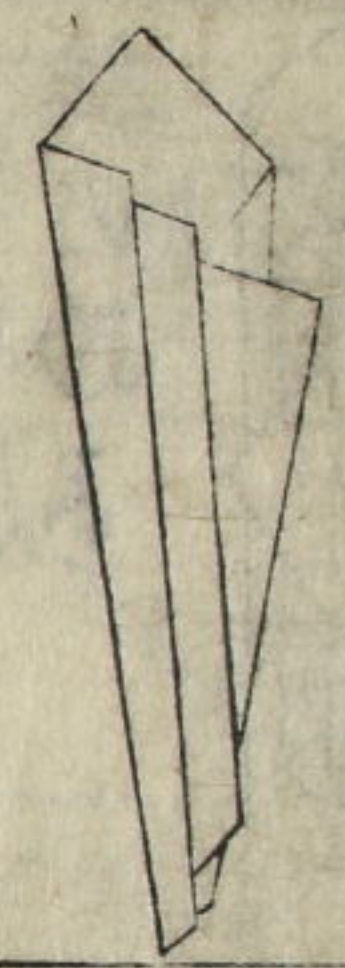
酒

破

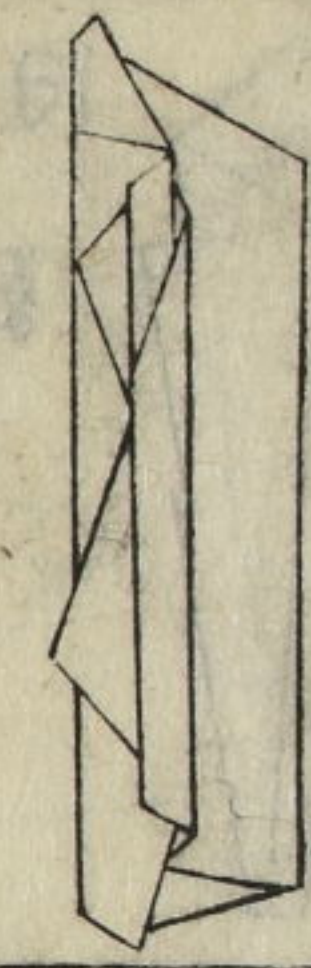
破

破

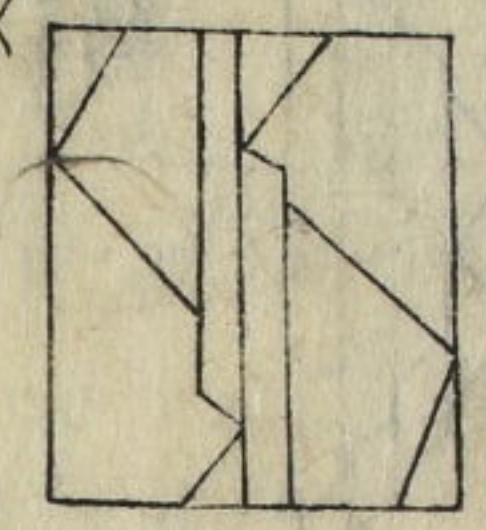
たご板



箒



紙



短冊



豆磨

豆系

豆粉

豆の粉

豆

茄子

乾菜

乾の菜

乾漬

葱

練糸

絹

お久

おでん

お

お物

お

お

お

お

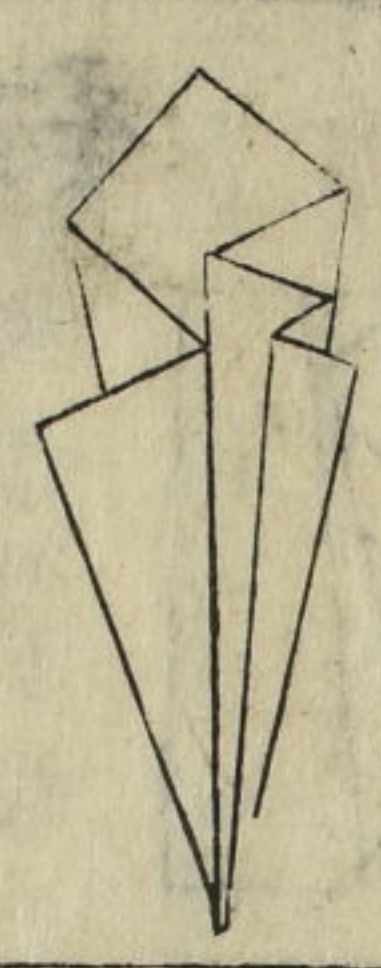
お

お

お

お

紙



ひねる



ひねる



折



絹

網

鉄

鐵

籠

籠

研

研

切

切

折

折

折

このの

ひら

お

く

実

枯

振

志

志

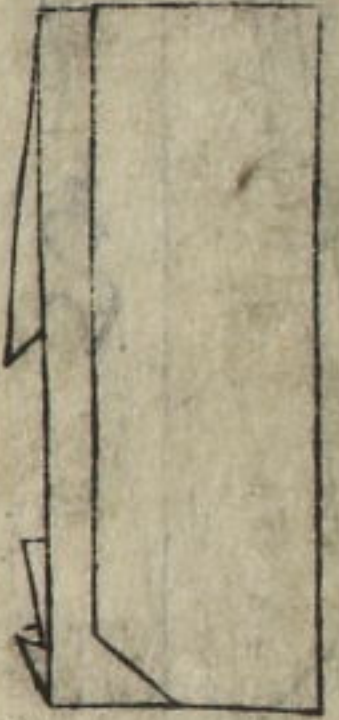
お

お

お

お

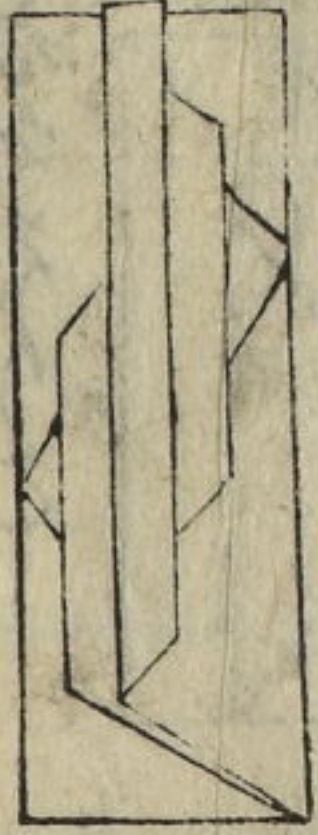
手拭 てぬぐい



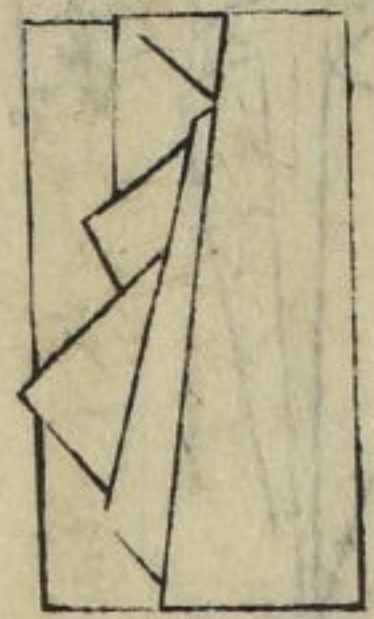
登子 のりこ



筆 ふで



墨 すずり



羽子 はねこ

人を呼ぶ ひとをよぶ
輿 こし
車 くるま
子 こ
子 こ
車 くるま
子 こ

お お

木 き

子 こ

内 うち

む む

か か

か か

ひ ひ

ひ ひ

め め

め め

い い

あ あ

あ あ

あ あ

あ あ

女法礼集七之巻終

十二月和名

正月	初月	初月	初月
子月	心月	心月	心月
二月	衣更月	衣更月	梅月
小正月	小正月	小正月	小正月
三月	沐生月	沐生月	櫻月
四月	卯月	卯月	卯月
五月	常夏月	常夏月	常夏月
六月	御霊月	御霊月	御霊月
七月	御霊月	御霊月	御霊月
八月	御霊月	御霊月	御霊月
九月	御霊月	御霊月	御霊月
十月	御霊月	御霊月	御霊月
十一月	御霊月	御霊月	御霊月
十二月	御霊月	御霊月	御霊月

女中名の字五行附

木性	火性	土性	水性	金性
梅	萩	長	松	竹
芳	野	重	千	七
万	野	重	千	七
武	野	重	千	七
百	野	重	千	七
葉	野	重	千	七



十二支之場

十二月 桐月 乙月 御免月	十一月 霜月 神奈月 御免月	十月 小春月 神奈月 御免月	九月 桂月 神奈月 御免月	八月 林月 神奈月 御免月	七月 神奈月 御免月	六月 神奈月 御免月	五月 神奈月 御免月	四月 神奈月 御免月	三月 神奈月 御免月	二月 神奈月 御免月	一月 神奈月 御免月
------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

六十一箇之十

さのこ	さのこ
いのこ	いのこ
さのこ	さのこ
さのこ	さのこ
さのこ	さのこ
さのこ	さのこ



北尾雪坑齋辰宣 著述

寶曆三年癸酉十月御免
同 五年乙亥三月發行

浪華

